第 182 回「防災まちづくり談義の会」レポート

（防災塾・だるま・ホームページ：　http://darumajin.sakura.ne.jp/　）

令和３年７月

日　時：2021 年 7 月 27 日(火)　14:00-15:45　　場　所：横浜市青少年育成センター　第１研修室

◆ 主　催：防災塾・だるま　　総括運営：鷲山　　総合司会：山田（美）　記録：田中（晃）

◆ 談義の会参加者： 33 名　（会場 20 名（内一般２名）、ZOOM：13 名）　（敬称略）

話題:　「災害を克服できる防災まちづくり・防災教育」の将来像を考える

講師：小さな命の意味を考える会代表　佐藤　敏郎氏　（元石巻市立大川小学校保護者）

公助連携力向上サロンリーダー　鷲山龍太郎氏　（防災塾・だるま塾長）

コーディネーター　荏本　孝久氏　（神奈川大学教授、防災塾・だるま名誉塾長）

司会の山田さん：Zoom で参加される佐藤さんをお迎えし、厳しい被災地の様子をお聞きし、未来への論議を重ねてほしい.

開会挨拶

荏本名誉塾長：風通しの良さで課題を共有し、具体的な方向性を活発に論議願いたい。

鷲山塾長：佐藤講師から被災地の様子を Zoom でお聞きし、課題を理解・検討したい。

第1部　佐藤敏郎氏講演　「あの日失われた命に意味づけをするのは、生かされた私たちの役割」

●被災時の状況：避難途中で津波に襲われ、次女が被災した。中学校の制服が出来た日だった。生徒 74 名、教師 10 名が犠牲になった。道路がなく船で駆け付けた時の様子を説明後、大川小学校からの動画で、構内の様子、２階の天井の 3.7ｍの津波の跡、津波に襲われた避難通路、津波が遡上した山道等の説明があった。

●この１０年の活動：「未来を拓く」が大川小学校の合言葉で、我が子の死を無駄にしたくない。救えなかった命を仕方ないとせず「あの日何があったか真実を知りたい」ことと、教訓を未来に生かしてほしいと、この１０年活動し、積み上げ、今ではやっと全体像が見えてきた。

・校庭では５７分間意思決定がされなかった。防災無線、ラジオでの津波の発生と避難の呼びかけ、保護者からの情報提供もあった。消防団や広報車が避難を呼びかけ、スクールバスも待機したが、判断と行動が伴わなかった。児童から「裏山に逃げよう」の声もあったが「勝手な行動はダメ」と引き戻された。

・橋のたもとに向い動き出し、フェンスを越えた道路で８～９ｍの波に襲われ、子どもと先生の命を奪った。

・普段なら簡単に登れる山への避難が出来なかった。危険を判断できないパニックが起きてしまった。生死が分かれる時の判断と行動が大事だ。大量の文書ではなく普段からの準備が必要だ。

・学校に協力的な地域であったが、津波避難所などについて、学校と地域で話し合われる機会も、呼びかけもなかった。ハザードマップは責任逃れ、信用できない。津波は学校まで届かないとされ、浸水地域に避難所もある。

・石巻市教委から新任校長研修会や初任者の研修会の講師依頼されるようになった。判決も含め、１０年の活動の積み重ねと変化を感じる。現職校長には同窓生も多く、課題を理解してもらえたと思う。初任者は、娘が生きていれば同い年である。

●未来に向って：防災は子どもが「ただいま」を必ず言える環境作りだ。人の為に行うもので、「恐怖を与える」「家族の悲劇がある」から「助かる未来があり、希望あるハッピーエンド」を目指している。講演活動のほか、「被災した子ども」が「被災しなかった子ども」と交流して伝承する活動をしている。

●**参考資料・小さな命の意味を考える会**　http://311chiisanainochi.org/?page_id=5

大川小学校遺構

学校の案内

津波到達点

カバン等の遺品

第２部　鷲山氏講演　★教訓を生かした防災まちづくりはかなり 実現できる。法的整備で全国標準に

●被災時の状況：震災時は校長会で北綱島小学校には不在、大川小学校の事故に衝撃を受けた。なお、関東大震災では横浜で２万６千人死亡、内小学生 903 人が死亡、また出火してまちが焼失した。

●この 10 年の活動：・学校の危機管理マニュアルを再構築することとし、着任した北綱島小学校と次の太尾小学校で安全確保義務を果たすため、防災教育の在り方と防災まちづくりに取り組んだ。特に小学生は生活時間の 1/6 が学校で、5/6 が地域であり、「学校でも家庭でも生き抜く力」の育成が大事とした。保護者からも「家で地震に遭ったらどうしたらよいか？」の疑問が投げられたことが、この 10 年間の原点となっている。

・まず自分が防災を学び、教える立場になった。さらに教育者としての義務とは何か、共助とは何かを、普段から話合い積み上げた。学校の横断的防災カリキュラムを構築し、職員とも共通理解を大切にしてチームとして防災を含む学校運営ができることを目指した。

・地域との「連携と参画」をテーマに地域連携に努めた。まちづくり協議会との話し合いを積み上げマンションにも声掛けて、2000 人防災訓練となった。簡易な地域の防災マニュアルを学校運営協議会で共有、地域、保護者と地域の役割を決めて蓄積してきた。子どもは訓練に参加して、連携して活動する大人たちの背中を見て育つ。

●未来に向かって：今回の講座では「自助、共助、公助で連携できる防災教育と防災まちづくり」の連携を模索した。さらに鷲山講師から「地区防災計画」で学校が地域社会に参加して変わっていくよう、「総合的防災まちづくり構想」が提言された。

●参考資料　・北綱島小学校の事例　https://www.jsnds.org/ssk/ssk_40_2_000_1.pdf
・太尾小学区の紹介記事 https://shin-yoko.net/2021/03/31/futoo_elementary_school2021/
・防災士　鷲山龍太郎　未来防災 NET　mirai-bousai.net

■参加者の主な意見

・学ぶだけの教育は子ども達が危ない。「命を守る」ことを「自分で判断し行動」できる防災教育が最も大切で「横並び主義」「マニュアル遵守」の教育の現状を改善していくことが最も大切と考える。
・津波は来ないと言われて被災、ハザードマップは信用できないことが教訓だ。強く世の中に訴えていくべきだ。
・東京には洪水マップがあるが、津波は配慮されていないことが分かった。

■まとめ　荏本コーデネーター

・震災後３回訪問している。今回佐藤講師の話を拝聴して、体制の問題がないか、もう少し手掛けていればと思いました。一方鷲山講師は地域で子供や学校を守る体制作りの話で、参考になった。
・「子どものため、地域と共に」は同じ方向に向かっているが、取り組んできたことを共有し、理解し合って変えていってほしい。

■総括：今回の談義の会は、わずか１００分程度で、釜石の大川小学校で起きた津波被災とこの１０年、公助連携力向上サロンからは学校運営の再構築とまちづくり、さらに未来構想と複数の５つのテーマが報告され、サロン活動の行く先の骨格が提案されました。添付したアンケートに意見が出ています。今後は事前に出席者が概要を理解の上参加し、論議して吸収し、各サロンとの連携を深めることが期待されます。（記録　田中晃）

●次回（第 183 回）案内　（会場参加＋ZOOM 参加）
・日時：2021 年９ 月 17 日（金）13：15～16：45　　チラシ 14 時
・話題：Ａサロン代表主催　「震度 6 強の首都直下地震に備えるための耐震化推進 」
・講師：防災塾・だるま 副塾長 田中栄治氏
・会場：横浜市青少年育成センター　第１研修室